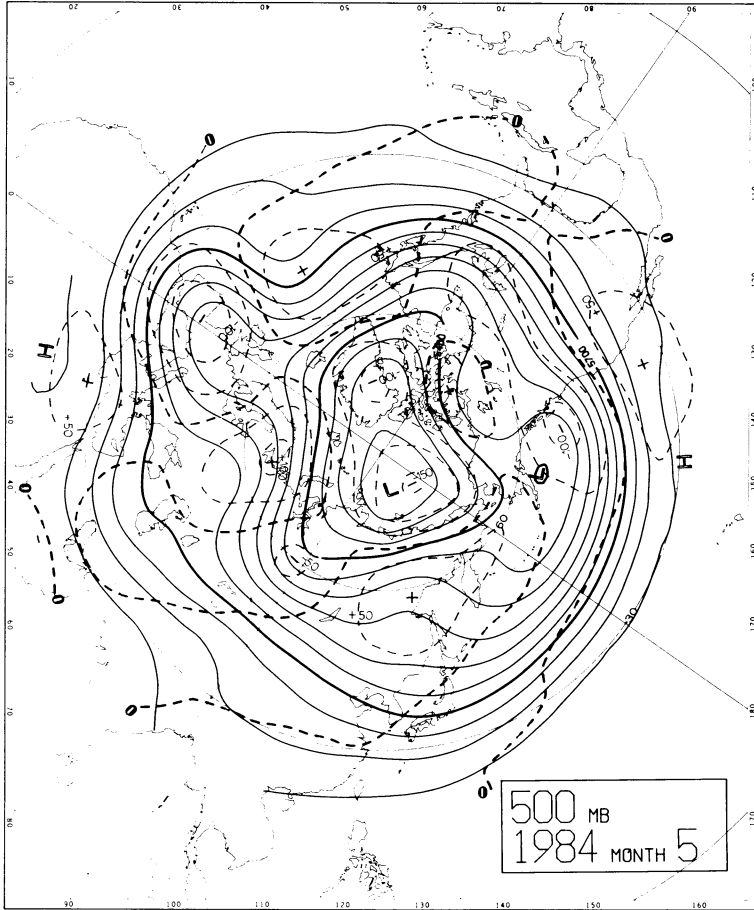


月平均500mb天気図. 1984年5月.

(破線は平年からの偏差. 単位 m)



ユーラシア～太平洋域で先月と似たパターンが続く
ユーラシア大陸上での500mb循環場の特徴は先月とほとんど変わっていない。ヨーロッパロシアの高緯度でリッジが発達し、その下流の90°Eにトラフが居すわっている。このトラフは先月に比べかなり弱まった(平年偏差で-200m→-50m)。そしてさらに下流のオホーツク海でリッジが発達している。このリッジに対応した地上のオホーツク海高気圧も先月に比べれば弱まった(平年偏差で+8 mb→+4 mb)ものの、この高気圧により北日本や東日本の太平洋側では依然として低温が続き、月平均気温は平年を1～3°C下回った。昨年5月にも、今年と同様ヨーロッパロシアにリッジが、90°Eにトラフが現れたが、オホーツク海付近

が負偏差、90°～150°Eの30°N以南が正偏差である点が今年と異なっていた。

ヨーロッパロシアのリッジは5月のモスクワやレニングラードに真夏並みの暑さと、ボルガ河沿いの穀倉地帯に干ばつをもたらし、結実期に入った冬小麦の成育が心配されている。7、8月にこの方面に現れるリッジは、しばしば朝鮮半島や日本に大水害をもたらすような循環場を形成することがあり、今後の推移が注目されている。

北太平洋高気圧は今月も日付変更線の東側で強く、正偏差の中心は先月よりもさらに東のカリフォルニア付近に移った。

(気象庁長期予報課 河原幹雄)